

I.Terashima

2008年5月14日生 牡 栗毛
 父ステイゴールド
 母オリエンタルアート(父メジロマックイーン)
 馬主/南サンデーレーシング
 調教師/池江泰寿(栗東)
 生産牧場/南社台コーポレーション白老ファーム
 通算成績/21戦12勝(うち海外4戦2勝)
 総取得賞金/15億7621万3000円
 主な勝ち鞍/11・13有馬記念(G I)
 12宝塚記念(G I)
 11菊花賞(G I)
 11日本ダービー(G I)
 11皐月賞(G I)
 12・13フォウ賞(仏G 2)
 13大阪杯(G II)
 11神戸新聞杯(G II)
 11スプリングS(G II)
 馬名の由来/金細工師(フランス語)



All Time THE BEST 100 HORSES

第 4 位

36924 P
前回2位
2位DOWN

ORFEVRE's
Impressive Scenes



秘めたる素質が完全に開花
 2011年 皐月賞(G I)

東日本大震災の影響で、東京競馬場での開催となった一冠目。中団追走から直線で鋭く脚を伸ばして完勝し、堂々と世代の主役をアピール



悲願達成を目前にして…
 2012年 凱旋門賞(仏G I)

道中は後方で進め、直線に向くと楽な手応えで前に迫る。先頭に立って突き放そうとしたところで内によれて差され、悲願達成はお預け



名残惜しさを残すラストラン
 2013年 有馬記念(G I)

直線で先頭に立つと、あとは引き離す一方。ラストランを8馬身差の圧勝で飾り、最後まで“常識外れ”を貫き通した

黄金の風、ターフを駆ける
 オルフェーヴル

年代別・性別ランキング

●10代……3位	●50代……3位	●男性……4位
●20代……3位	●60代……3位	●女性……3位
●30代……3位	●70代……6位	
●40代……3位		

広い層で満遍なく高い支持を集める

Voter's Voice
 美しさに見惚れて目が離せなかった唯一のお馬さん(50代・女性)●種牡馬となつてもダートで世界の頂点に立つ馬を出すなど、思いもよらない結果を出してくれるのは現役時代と変わらないところも嬉しい(30代・男性)●強いのはもとより型破りなところがほかの馬にはない個性的なところ(50代・男性)●あの荒々しさ、圧倒的な強さ、そして金色に輝く姿は正しく日本競馬の結晶(10代・男性)

スーパースターの強さより
 印象を残した個性派ぶり

三冠馬で、有馬記念(2勝)と宝塚記念にも勝ってG I 6勝。さらにフランスの凱旋門賞で2年連続2着になった。それほどのスーパースターなのに、強さよりも、勝手気ままなレースぶりのほうが強く印象に残っている。
 調教師の池江泰寿さんによれば、元々人を困らせたり、人の言うことを聞かない馬だったそうだが、厩舎にきた当初は「優等生で、おとなしすぎて心配になるぐらい」だったという。ところが、デビュー戦でいきなりスイッチがはいった。装鞍所で暴れてスタッフを慌てさせ、レース後には池添謙一騎手を振り落としてしまった。
 それからオルフェーヴルの本性があらわれた。調教中に止まってしまうこともよくあった。菊花賞に勝って三冠馬になったと思ったら暴走し、また池添騎手を振り落とした。阪神大賞典では3コーナーで突然レースをやめようとして後方まで下がりながら、ふたたび走りだして2着に追い込んだ。まさにも驚きと笑いを一度に提供してくれた三冠馬などほかにいない。
 その最たるものが4歳の凱旋門賞だった。フォウ賞でみごとにオルフェーヴルを御して勝利したクリストフ・スミヨン騎手は、凱旋門賞の前に「勝つ自信はある。自分が乗った馬で三本の指にはいる」と池江さんに話していたという。レースでもそのとおりで、直線で先頭に立ったオルフェーヴルは完全に勝利態勢にはいった。ところが最後の最後にやっってしまう。阪神大賞典のように走るのをやめて、2着に落ちたのだ。スミヨン騎手でさえ簡単に手玉にとってしまったのだから、ある意味、あっぱれである。

そんなオルフェーヴルも引退レースの有馬記念だけは違った。5歳の凱旋門賞に乗るためにフランスでレースや調教を経験しながら結局乗れなかった池添騎手が、どんな思いで最後の手綱をとっていたのか。オルフェーヴルはそれを感じていた。だから、あの8馬身差の独走がうまれたのだ。